

---

# この事業で取り組んだこと・見えてきたこと

## ～全国調査・パイロット調査を通じて～

---

検討委員会委員：永田 久美子  
(認知症介護研究・研修東京センター)

認知症とともに生きる人が、のびのびと語れ、希望をもって元気で暮らせる地域に  
北海道から沖縄まで、全ての市町村で



# 1. 事業の経過

- 本人が本音を語れる場や機会をつくるためには
- 本人の声を、施策に活かしていくには

平成27年度から本事業がスタート

## 1. 委員会で方法論の検討

「本人ミーティング」という方法を試案

本人が集い、自らの体験や希望、必要としていることを語り合うミーティングを開催

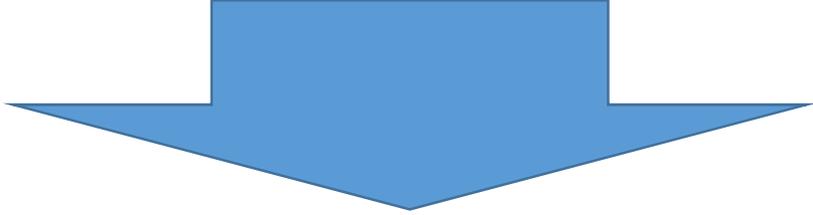


本人の声をもとにニーズを検討し、地域で共有し活かす。



2. 全国6地域で「本人ミーティング」のパイロット調査

⇒全地域で実行可能性、有効性が確認された。



## 平成28年度

### 1.全国的な実態や動きを把握する。

「認知症の人が必要なことの把握と施策等への反映に関する全国自治体調査」の実施

### 2.「本人ミーティング」の実行可能性・有効性の拡充を図る

- パイロット調査を10地域に拡大
- 取組みの経過を詳しく集約・検討

### 3.「本人ミーティング」の手引きの作成 \*1, 2の結果をもとに

- 「本人ミーティング」をどの地域でも実施し、活かしていくためのわかりやすい手引きを作成。

## 2. 全国自治体調査

### 1) 認知症の人が必要なことの把握と施策等への反映に関する全国自治体調査 実施概要

#### 調査のねらい

- 認知症の人に、有効かつ効果的な施策を展開していくには、本人の視点を重視することが不可欠とされている。
- 本調査は、各自治体において、認知症の人が感じている「生きづらさ」や「必要なこと」をどのように把握し、それらをどう活かしているか（事業や支援等の改善に反映、計画づくり等の施策へ反映、等）、その現状や課題、今後の予定について調査した。
- 寄せられた情報を集約し、自治体等が今後の取組みや施策に具体的に活かしていくための情報提供や、わかりやすい手引きの作成につなげる。

#### 調査対象

- 全都道府県の認知症施策の担当者（47）
- 全市町村の認知症施策の担当者（1741：東京都特別区（23）を含む）

#### 調査期間

平成28年12月8日  
～平成29年1月13日  
(最終締切：平成29年2月13日)

#### 調査方法

- 都道府県：調査票電子データをメールにて送信、回収した。
- 市町村：調査票電子データを、都道府県を通じてメール回付・回収

## 2) 調査回答状況：平成29年2月3日現在

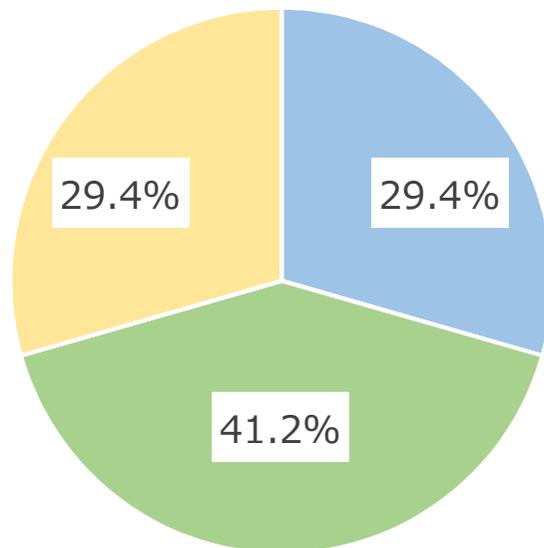
都道府県	47都道府県（100.0%）
------	----------------

市区町村	950市区町村（54.6%）
------	----------------

\* 都道府県別市区町村回答率 10.3%～ 94.4%

## 「認知症の人の視点重視」について

＜本人視点の位置づけ＞

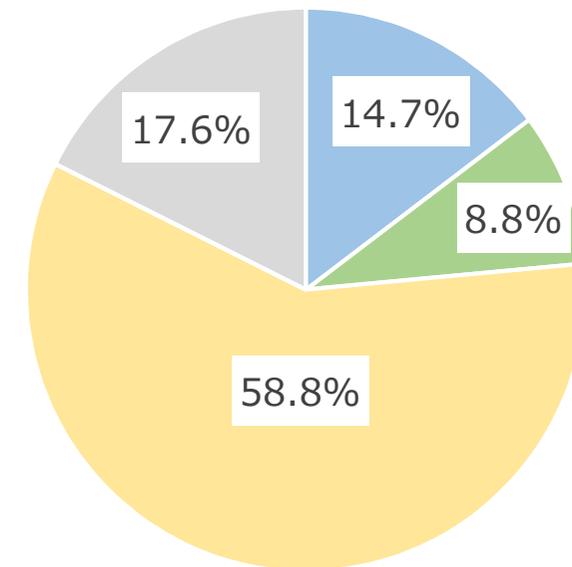


認知症施策の基本方針として「本人の視点」を掲げ、事業を進めている。

基本方針には掲げていないが、事業の実施においては「本人の視点」を重視して進めている。

基本方針・事業ともに、「本人の視点」を重視するには至っていないが、認知症施策担当部署内では、「本人の視点」を重視することへの共通理解が図られている。

＜本人の参画＞



実際に委員会等に入ってもらい、本人の意見を聴いて、施策や事業等に活かしている。

会議に本人を招いて話をしてもらったことはあるが、委員としての参画はない。

委員会等への本人の参画や、本人を招いて話をしてもらうことは、まだない。

その他

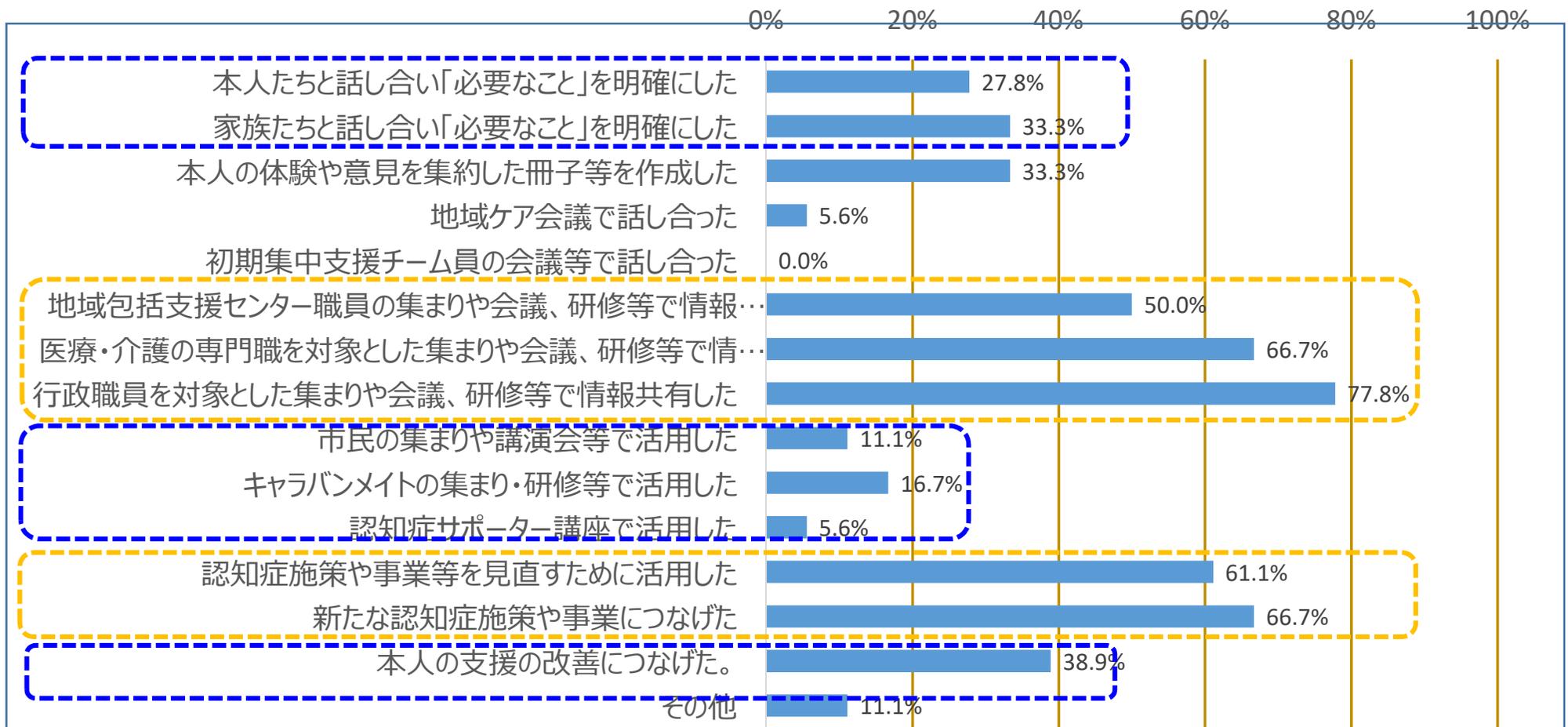
### 3) 都道府県調査結果概要 (調査結果ダイジェスト)

H29.1.13現在の回答 N=34

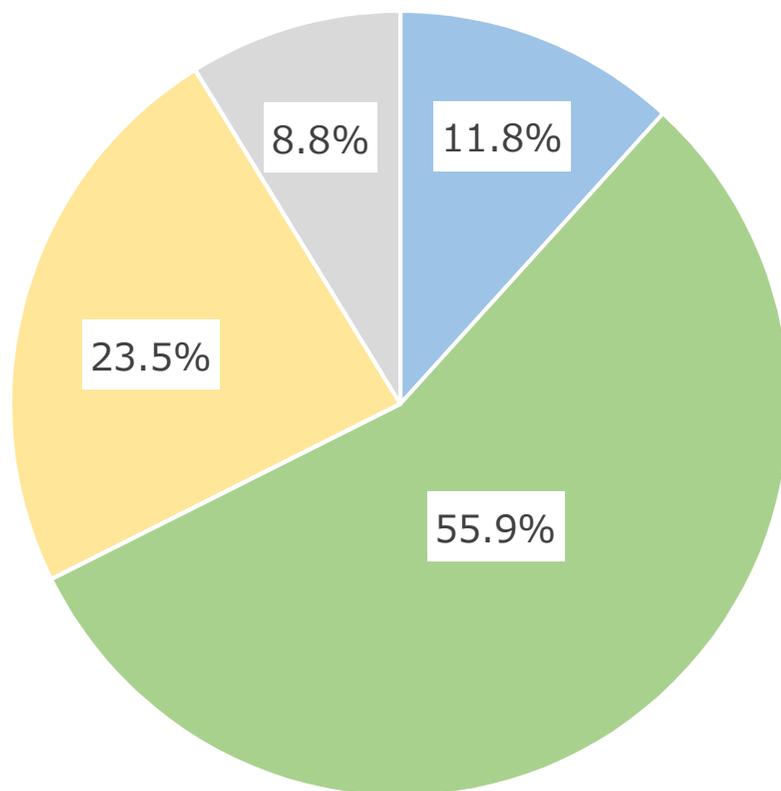
○何らかの「本人調査」の実施：18都道府県 (53.9%)

○調査後の活かし方

(複数回答) N=18



## 市町村による「本人調査」実施に関する都道府県による支援予定



市区町村や地域の関係機関等の実施を具体的に支援していく予定がある。

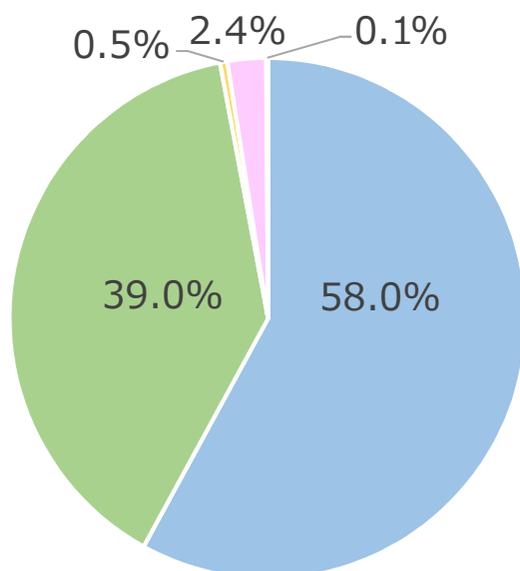
市区町村や地域の関係機関等の実施を具体的に支援していく予定はないが、今後支援していきたい。

市区町村や地域の関係機関等の実施について、支援することは考えていない。

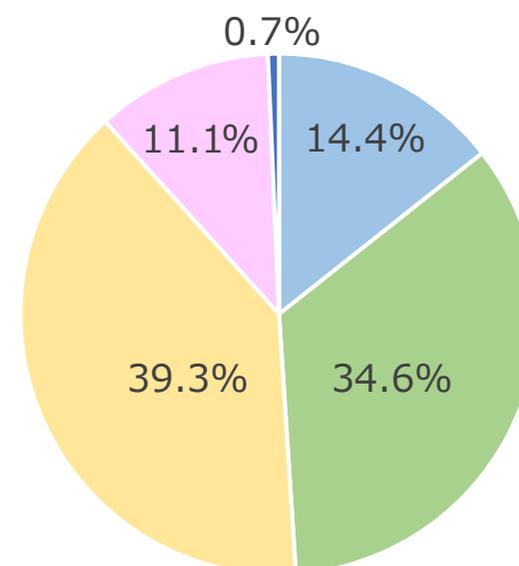
その他

## 「認知症の人の視点」について

＜本人視点重視への考え＞



＜本人視点の位置づけ＞



新オレンジプランに掲げられる以前から、重要だと考えていた。	58.0%
新オレンジプランに掲げられたことで、重要だと考えるようになった。	39.0%
新オレンジプランに掲げられたことは知っているが、それほど重要だと考えていない。	0.5%
新オレンジプランに掲げられたことを知らなかった。	2.4%
その他	0.1%

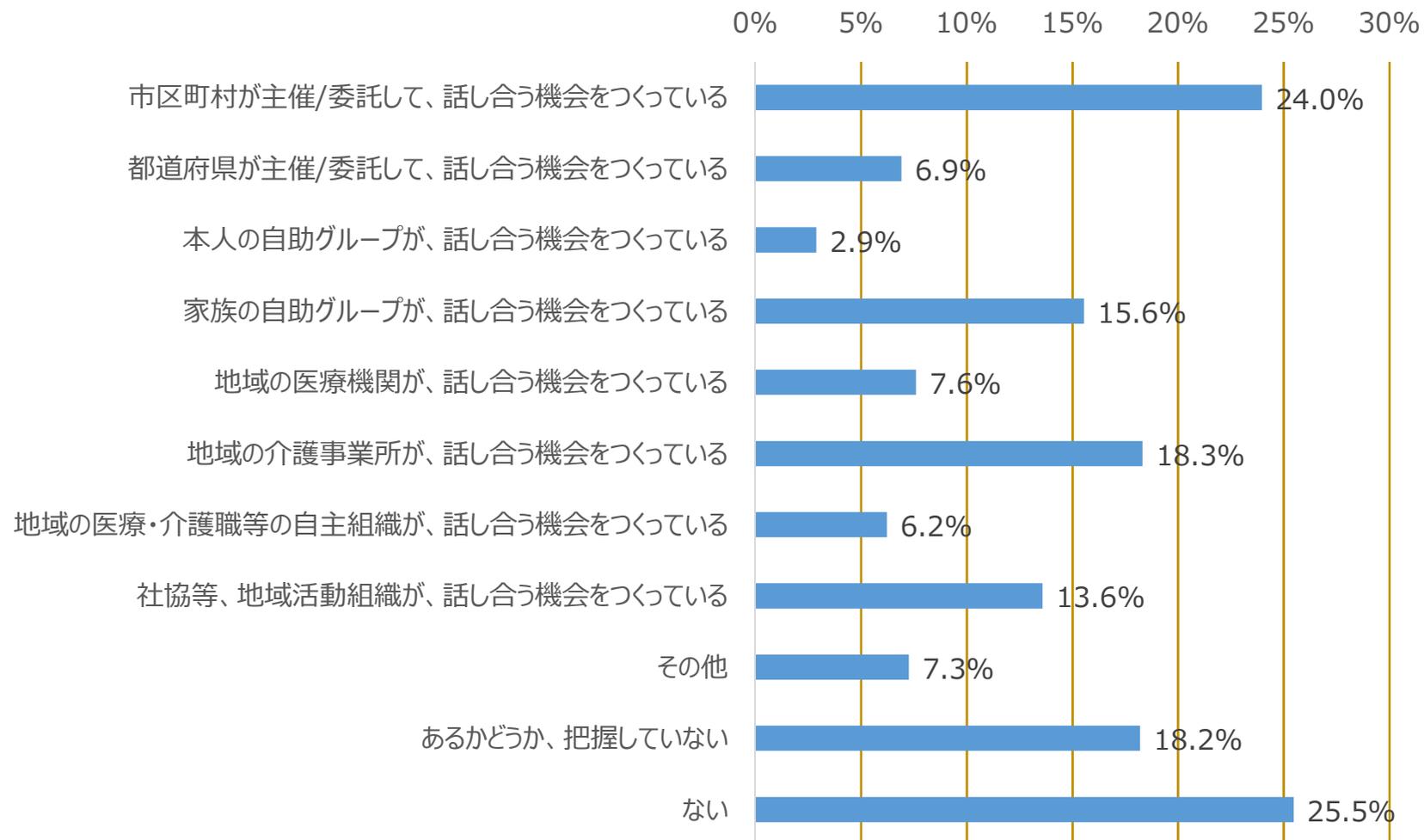
自治体として認知症施策の基本方針として「本人の視点」を掲げ、事業を進めている。	14.4%
自治体の基本方針には掲げていないが、事業の実施においては「本人の視点」を重視して進めている。	34.6%
自治体の基本方針・事業ともに、まだ「本人の視点」を重視するには至っていないが、認知症施策担当部署内では、「本人の視点」を重視することへの共通理解が図られている。	39.3%
認知症施策担当部署内で、「本人の視点」を重視することへの共通理解は図られていない。	11.1%
その他	0.7%

## 4) 市区町村調査結果の概要 (ダイジェスト)

H29.1.13現在の回答から (N=869)

○本人が集まり、話し合う機会 「あり」 490市町村 (56.4%)

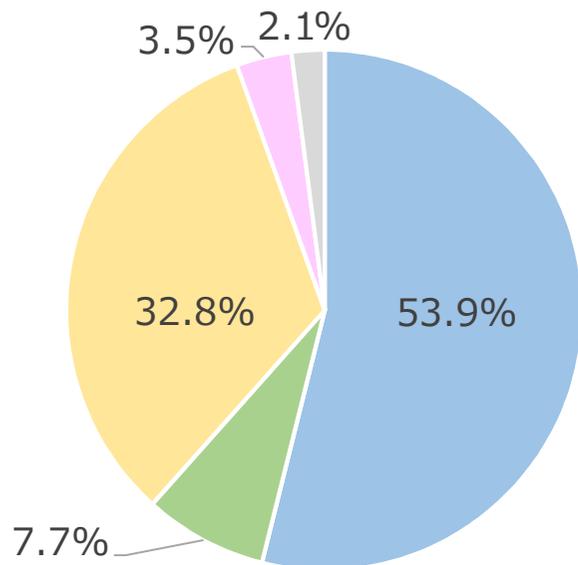
○本人が集まり、話し合う機会の種類 (複数回答)



## 4) 市区町村調査結果の概要 (ダイジェスト)

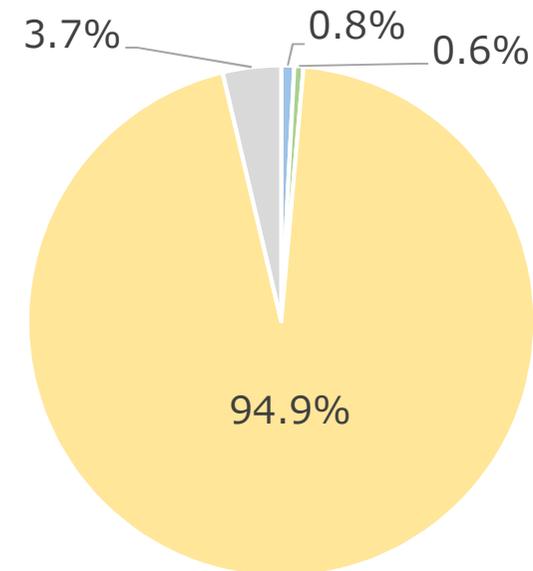
H29.1.13現在の回答から (N=869)

### 本人と行政担当者との関わり



本人と直接関わり、本人の体験や本人が必要としていることを聞くようにしている。	53.9%
本人と直接関わることはあるが、本人の体験や本人が必要としていることはあまり聞いていない。	7.7%
本人の体験や本人が必要としていることを直接聞く機会はないが、関係者を通じて知るようにしている。	32.8%
地元の本人の体験や本人が必要としていることは、直接的にも間接的にも聞いていない。	3.5%
その他	2.1%

### 本人の委員会等への参画



実際に委員会等に入ってもらい、本人の意見を聴いて、施策や事業等に活かしている	0.8%
会議に本人を招いて話をしてもらったことはあるが、委員としての参画はない	0.6%
委員会等への本人の参画や、本人を招いて話をしてもらうことは、まだない	94.9%
その他	3.7%

## 4) 市区町村調査結果の概要 (ダイジェスト)

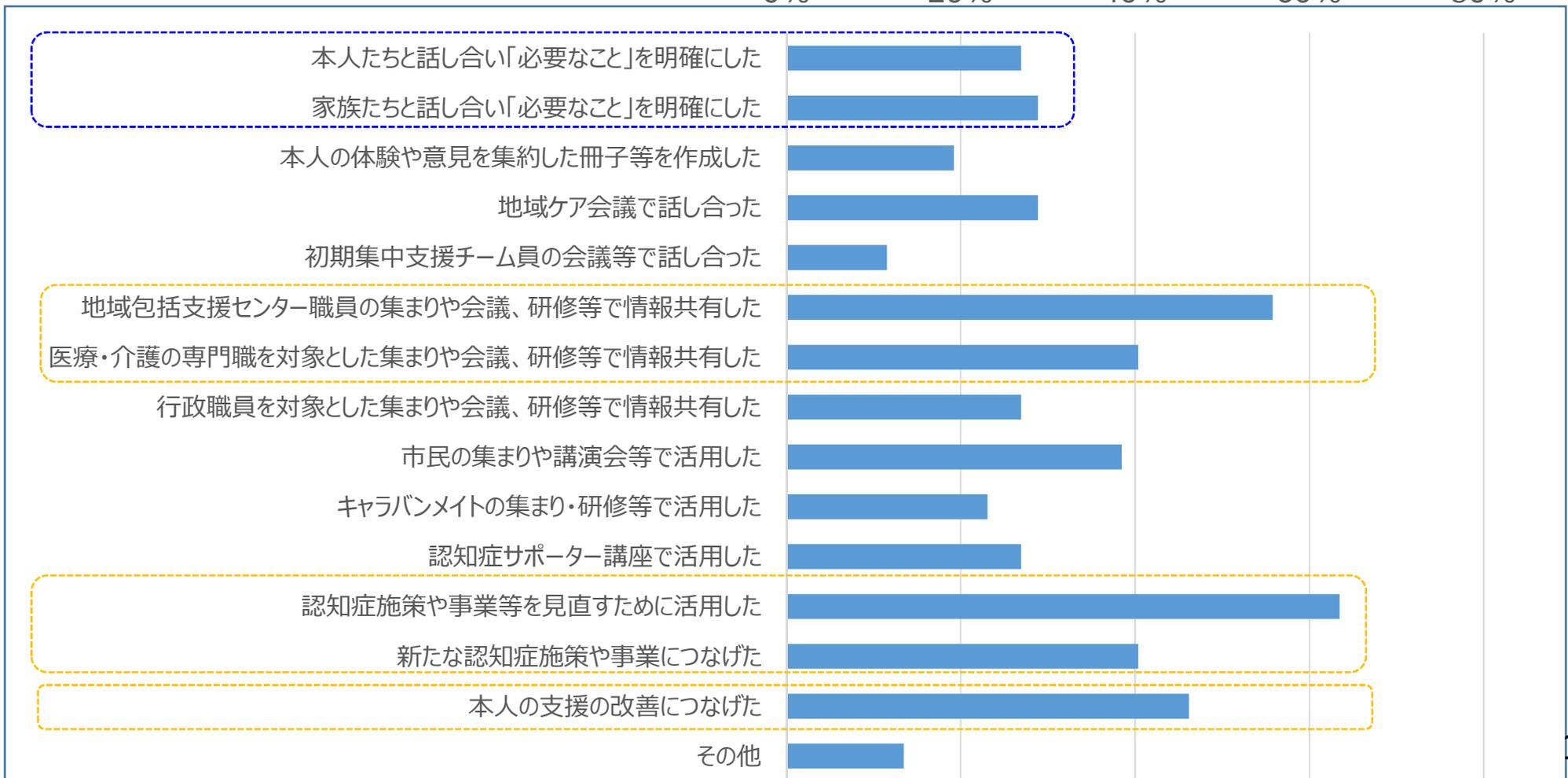
H29.1.13現在の回答から (N=869)

### ○何らかの「本人調査」の実施 「あり」 52市町村 (6.0%)

### ○調査後の活かし方

(N=52) 複数回答

0% 20% 40% 60% 80%



### 3. 全国自治体調査(速報版) から見えてきたこと

「認知症の人の視点」を重視して事業等を進めている自治体が過半数  
\* 意識・方針が浸透してきている。

何らかの「本人調査」の実施  
・都道府県では、約半数  
・市区町村では、役1割

本人が集まり、話し合う機会  
市区町村において「あり」が  
5割強 \* 本質問は、市区町村に実施

本人の参画「あり」  
・都道府県 14.7%  
・市区町村 0.8%

「本人調査」後の活用は、  
・専門職向けの活用が多い。  
・施策への反映は、5~6割  
・本人、家族との活用がまだ少い。  
・市民向けの活用がまだ少ない。

\* こうした機会を活かし、  
本人が声を出せ、それが  
施策等に反映される流れ  
を作りだしていくことが  
必要。

\* 「本人の参画」は  
まだ萌芽段階

\* 本人の視点の重視を  
行政として着実に  
進めるためには、  
「本人参画」の推進  
が必要。

\* こうした機会がない自治体  
が、取組みを勧められるよう  
情報提供や支援が必要。

\* その必要性や意義、  
方策の浸透が必要。

\* 「本人調査」の実施や結果の反映の  
本格的な取組は、これからという段階  
\* 有効な方法の情報提供等が求められ  
ている。

現在は、「認知症の人の視点」重視の施策・取組が進み始めた重要な時期。  
実質的な取組みを地域ぐるみで広げる基礎となる内実のある本人調査の推進が必要。

## 4. 「本人ミーティング」パイロット調査

### 1) 実施概要

#### 調査のねらい

- ①「本人調査」の一手法として「本人ミーティング」に焦点をあて、多様な地域、実施主体で実際に試行し、結果をもとに、その実行可能性、有効性を拡充するための知見を集約する。
- ②「本人ミーティング」後の、「本人の声等の活かし方」についても把握し、施策等への反映のあり方の検討を行う。
- ③上記の情報を集約し、自治体等が、今後の取り組みや施策に具体的に活かしていくための情報提供や、わかりやすい手引きの作成につなげる。

#### パイロット地域/チーム(詳細は次ページ)

- 平成27年度からの継続地域/チーム（6）
  - ・仙台チーム（宮城県）
  - ・町田チーム（東京都）
  - ・国立広域チーム（東京都）
  - ・富士宮チーム（静岡県）
  - ・大阪チーム（大阪府）
  - ・大牟田チーム（福岡県）
- 平成28年度からの新規地域/チーム（4）
  - ・北見チーム（北海道）
  - ・上田チーム（長野県）
  - ・兵庫チーム（兵庫県）
  - ・綾川チーム（香川県）

#### 調査期間

平成28年8月～平成29年2月

## 2) 「本人ミーティング」パイロット地域の紹介 \*平成28年度から新規

	北見*	仙台	国立広域 (国立・立川)	町田	上田*	富士宮	大阪	兵庫県*	綾川*	大牟田
人口	120,314人	1,058,128人	(国立市)75,452人 (立川市)181,440人	426,978人	159,128人	134,164人	2,691,185人	5,536,989人	24,548人	118,351人
高齢化率	30.4%	22.4%	(国立市)22.4% (立川市)23.7%	25.6%	29.1%	27.0%	25.3%	27.1%	32.9%	34.7%
実施主体	・地域多職種ネットワーク ・総合病院(認知症疾患医療センター) ・地域包括支援センター	・本人と多様な人達の地元チーム	・地域のクリニック (地域連携型認知症疾患医療センター)	・次世代型デイサービス	・総合福祉施設 ・地域住民自主組織	・行政+地域包括支援センター ・地域住民自主組織	・認知症の本人・家族・その支援者たちを支援するNPO	・当事者グループ ・県庁 ・県の若年性認知症生活支援相談センター(県社協)	・行政+地域包括支援センター ・介護予防事業からはじまった住民組織	・行政 ・認知症地域支援推進員(認知症コーディネーター)
開催場所	地域食堂	市民活動サポートセンター会議室	「認知症カフェ」 (デイサービスセンター)	通所介護事業所 + 活動の場	事業所内の相談室	アクセスの良い、なじみの交流センター	ふだんの活動場所(通常集まる機会に)	古民家の定食屋	なじみの交流スペース	地域交流拠点(介護事業所等に併設して市が設置)
参加者	(開催前)	本人 7人 同席者 4人 その他 5人 計 16人	本人 8人 同席者 7人 オブザーバ(専門職・行政) 14人 計 29人	本人 パートナー	本人4人 同席者3人 計 7人	本人5人 同席者21人 計 26人	本人 支援者	本人 8人 同席者 18人 計 26人	本人 10人 家族 4人 支援者7人 ケアマネ2人 行政・地域包括 10人 計 33人	本人12人 (地元4人 他地域8人) パートナー等
進行役	なじみの職員(介護職)	本人	支援者(看護師)	本人となじみのパートナー	なじみの職員(看護師)	なじみの職員(地域包括)	実施主体の代表(看護師)	会の座長(なじみの学識経験者)	なじみの職員(地域包括・保健師)	本人がパートナーと一緒に

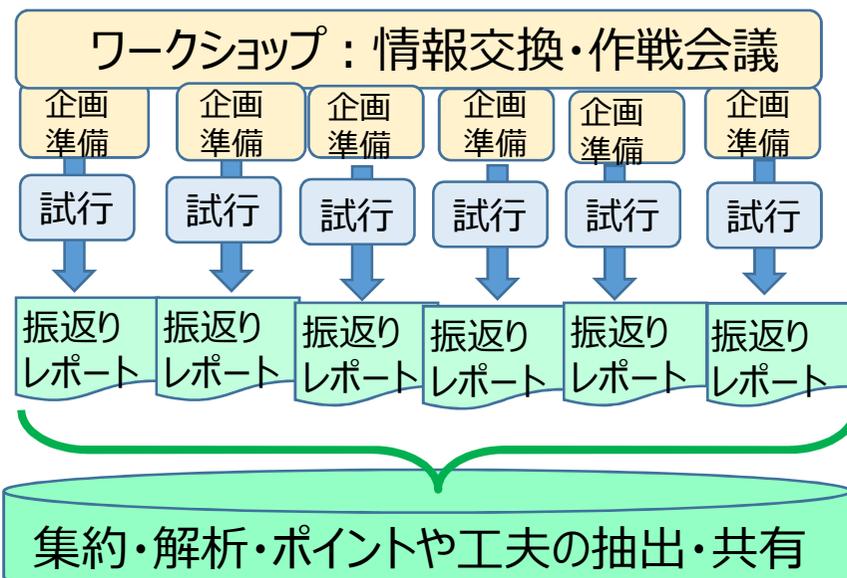
### 3) 「本人ミーティング」パイロット地域での進め方

#### 継続地域（6）

#### 継続地域（4）

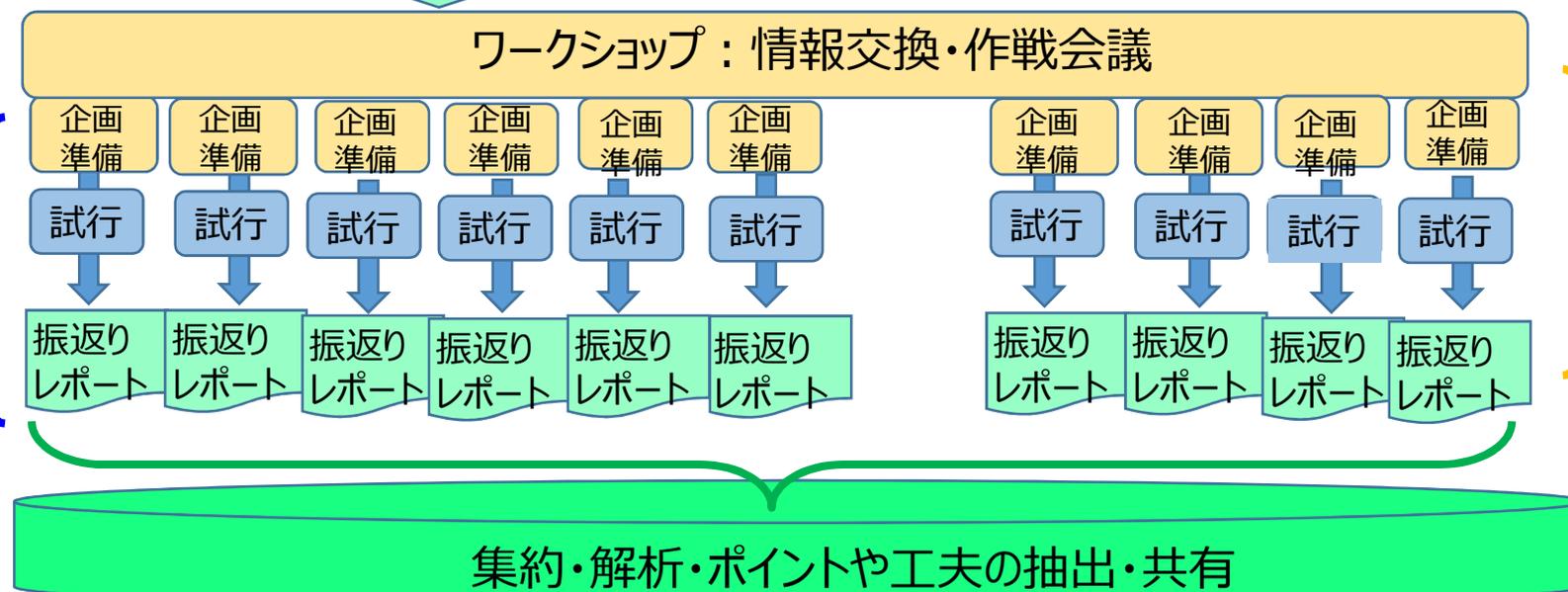
平成27年度

\* 各地域で  
創意工夫



平成28年度

\* 継続的に  
さらに工夫  
を重ねる

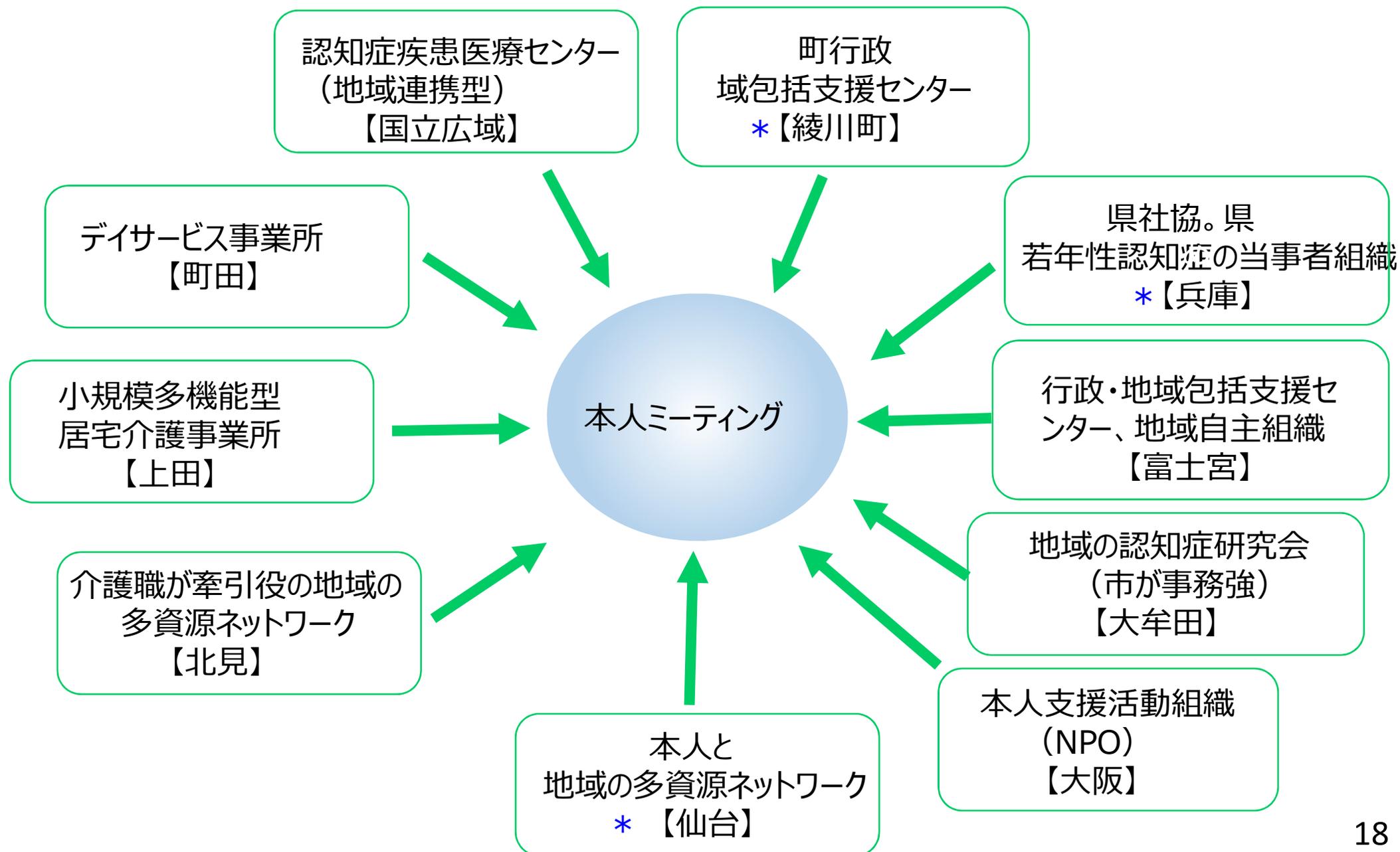


\* 先行地域の  
情報を参考に  
各地域で  
創意工夫

#### 4) 「本人ミーティング」パイロット地域の取組みを通じて見えてきたこと

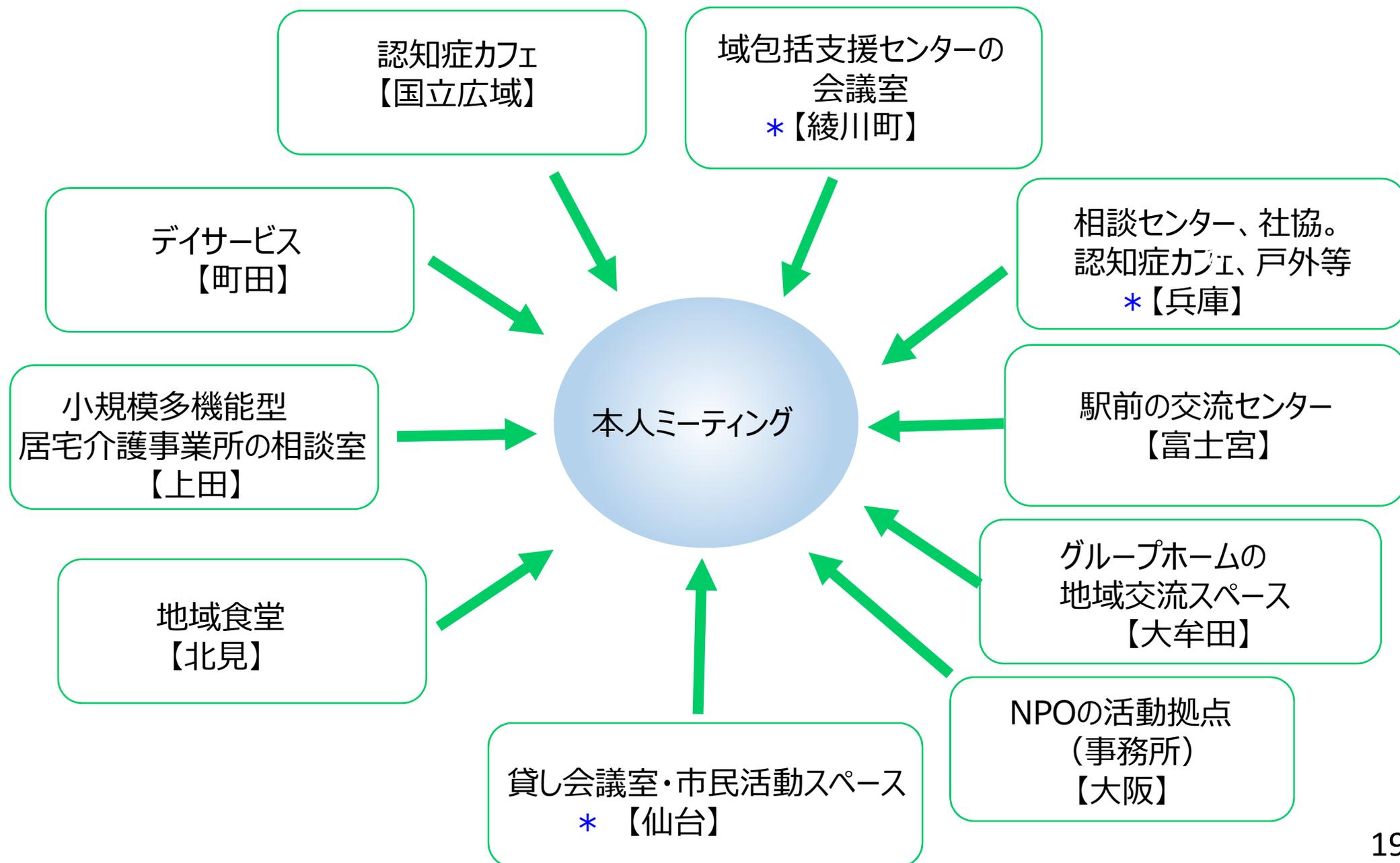
### (1) 多様な実施主体で実施できる

\* :本日の報告地域/チーム



## (2) 多様な場々で実施できる

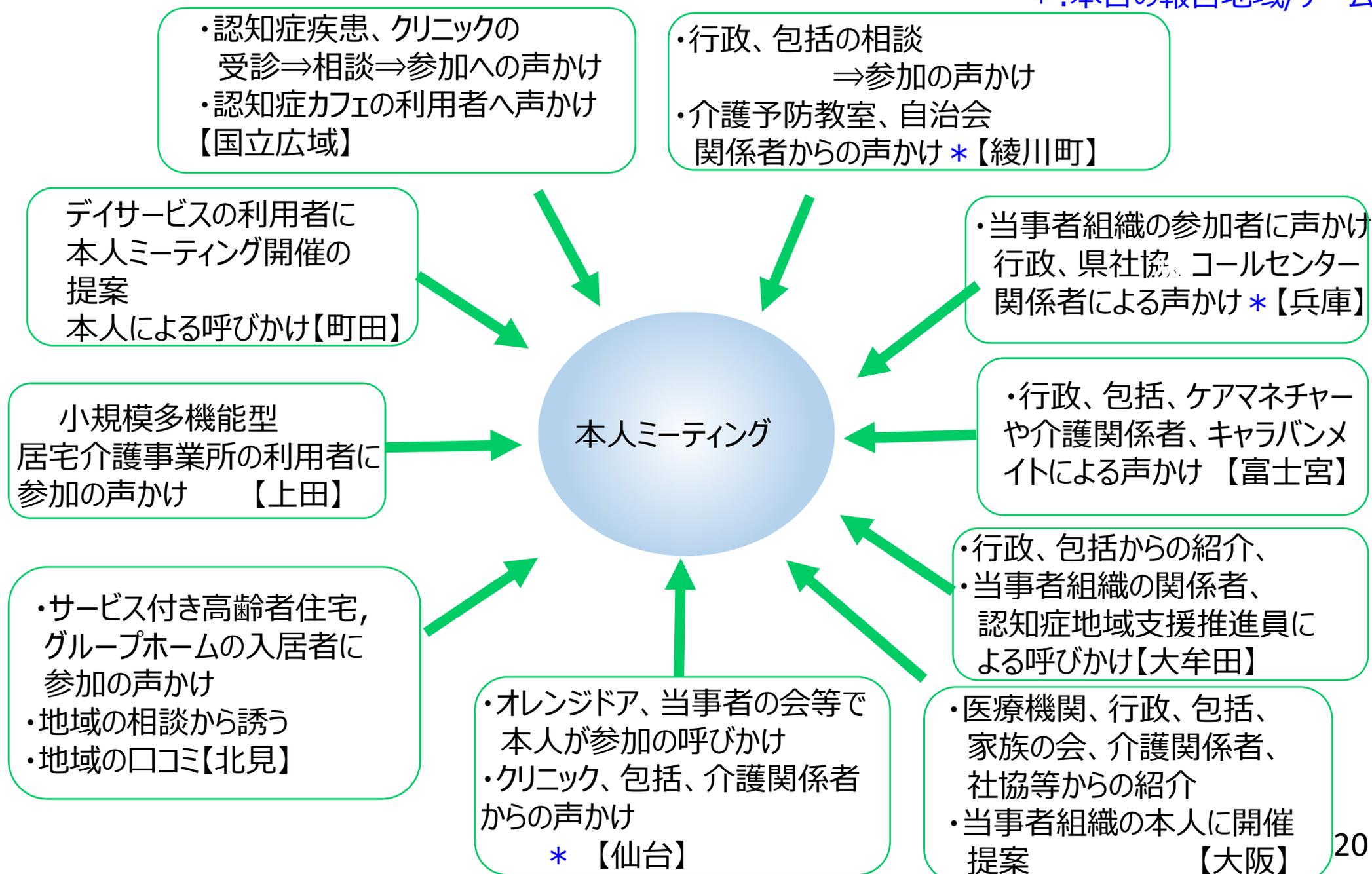
\* :本日の報告地域/チーム



#### 4) 「本人ミーティング」パイロット地域の取組みを通じて見えてきたこと

### (3) 多様なルートを通じて、参加者が集まることができる

\*:本日の報告地域/チーム



(4) 本人が企画・準備段階から参加して、本人たちが集まりたい、話したいと思える、各地域にあったやり方を工夫することが可能

【企画・準備段階で各地から出てきた共通の本人の声】

- 集められて、何かさせられるのは嫌。
- なんのために集まって話すのか。  
他(デイや認知症カフェ等)と何がどうちがうのか、ちゃんとわかるように説明がほしい。
- 堅苦しいと緊張して、言いたいことも言えなくなる。  
打ち解けてはなせるように。
- 家族は、離れたところにいてほしい。  
頼ってしまったり、気を使って本音を言えなくなる。
- 集中して話せるよう、何について話しているのかわかりやすく進めてほしい。
- 言いつぱなしにならないよう、その後どうするのかも考えておく必要がある。

等

## (5) 本人同士で話すと、みんなが自分なりの声を発することができる。

○「話さない」「話せない」とみなされていた人も語りだす。

例 「夫は、話せないと思っていたが、発言しておどろいた」(妻)

○施策等への意見は、難しくてわからない人とみなされていた人も自分なりの思いや意見を語る。

例 「後で母が話した内容を聞いた。話合いで話せるなんて・・・」(娘)

○ふだんからよく話してくれていた人が、秘めていた思いを語る。

例 「なじみの関係になっていてよく理解しているつもりだったが、思いがけない発言が出てはっとした。本人が話す機会をもっと意識的に作る必要がある」(行政職員)

\* 生き生き語っている他の仲間に触発され、勇気をもらう。同じ立場として鎧がぬげる。

\* 「声が出るのを待つ」、「話しやすい場やシナリオづくり」などの配慮が大切。

\* 集められての「楽しい会話」でとどまらずに、「自分の思いを語る」「他の人や地域に役立てる」ために、自ら参加する(自分から集まる) 機会を作ることが大切。

\* 語ることで自信が蘇る。前向きになるきっかけになる。

(6) 本人ミーティングは、参加した関係者の認知症の人や支援へのイメージや認識を大きく変え、積極性を高める機会になる。

\*前ページの例も参照

- 上司にも参加してもらったら、その後とても応援・協力してくれるようになった。
- 近隣の地域包括支援センターの職員がオブザーバーで参加。  
「自分の地域でもこうした機会が必要。」  
「うちの地域ではまだ無理と思っていたが、先延ばししないでやってみたい。」
- （同席した介護職員より）  
普段のサービスだけでは、本人を支え切れてないことがよくわかった。  
本人たちが「暮らしの中で必要としている本当の願い」をよく聞いて、それをひとつでもかなえられるように、地域の人たちとも話し合ってみたい。

\* 施策の立案や運営に関わる行政関係者の同席のチャンスを作ると  
施策への反映や推進に役立つ。

\* いつもの関係者だけで実施せず、自治体内外の関係者の同席を調整すると、  
1回の「本人ミーティング」の波及効果が生まれる。 \* 本人と相談しながら

(7) 本人ミーティング後に、本人と関係者で振り返る機会をつくると語られた声の中にあるニーズや活かせることが明確になる。

\*前ページの例も参照

【本人】

○話せてよかった・・・と思ったが、よく覚えていなかった。今日、振り返れたおかげで言いたかったことを確認できたし、そのことをみんなが大事に活かそうとしていることがわかって、とてもうれしかった。  
話してよかったと思った。

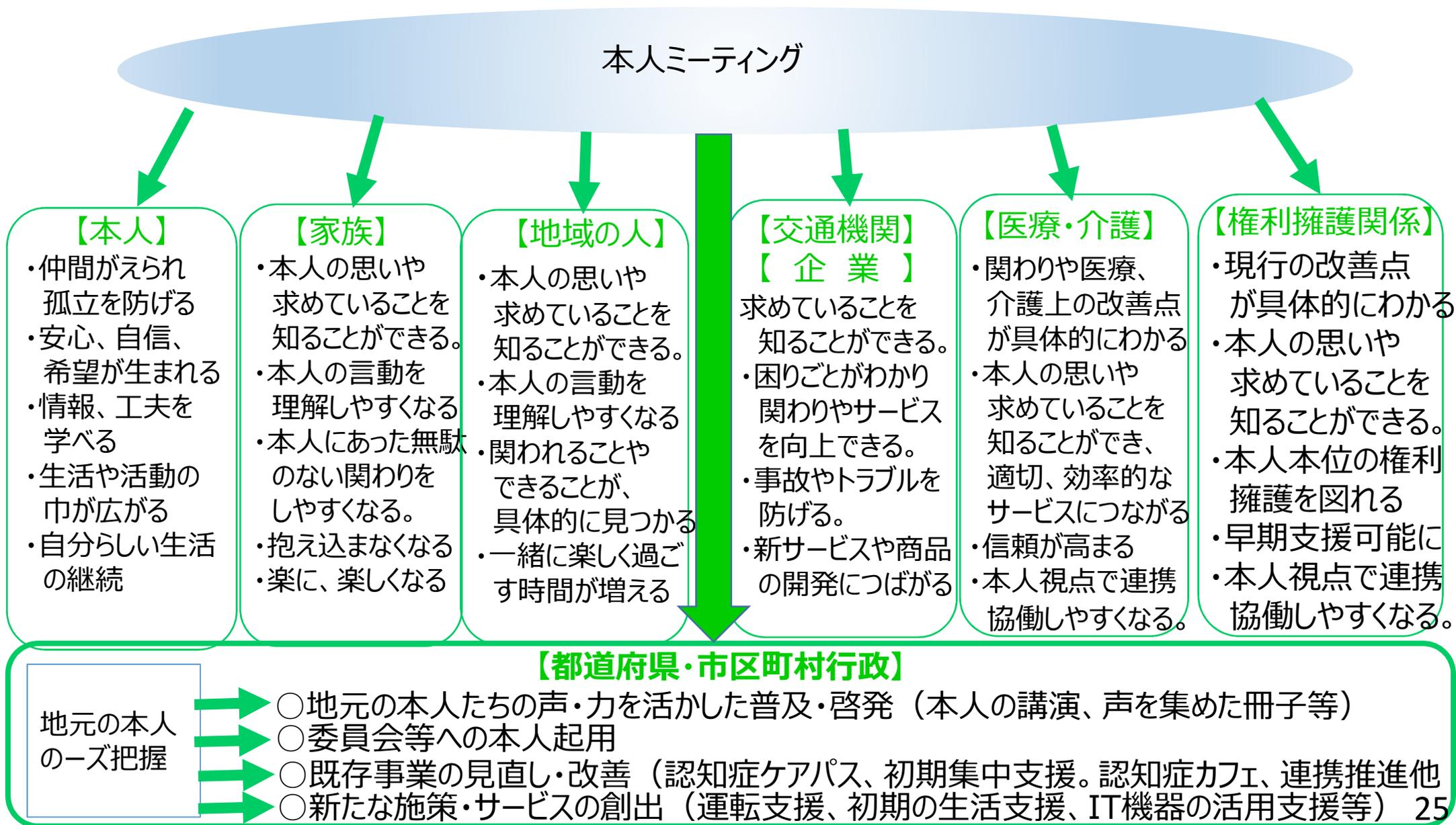
【行政担当者】

○当日もたくさん気づきがあったが、まだ漠然としていた。  
こうして整理してみると、事業や今後、どの声をどうつなげていけばいいのか、流れや次にすることが、少しずつ見えてきた。

\* 本人が語ったありのままの記録をもとに、ミーティング後、できるだけ早い時期に、振り返りの集まりをひらくと、本人、同席者、関係者に多様なメリットが生まれる。

\* 振り返りの会は、本人抜きで行わない。本人ミーティングに参加した本人に必ず呼びかけて、一人でもいいので本人が参加することが大切。

(8) 本人ミーティングの実施を通じて、多様な人々の意識・活動の拡充や施策に反映できる点が豊富にみつかるとのこと。



# 5. 全国の市町村での「本人ミーティング」の実施と活用に向けて

## ★「本人ミーティング」の実施と活用のキーポイント

- ①本人ミーティングの意義・本質を考え、関係者間で丁寧に共有する
- ②すべてのプロセスにおいて、本人の参画を大切に：本人の力・声を活かす  
～ミーティングの企画・準備・実から振り返り、結果の反映まで～
- ③地域のすでにある機会・場、人、つながり、事業を活かす、つなげる
- ④できることから、小さくスタート
- ⑤続ける。少しずつ広げる
- ⑥地元で本人のパートナーとなる人を育てる➡本人ミーティングの重要な担い手
- ⑦本人ミーティングの推進チームを育てる：多資源で。行政とのつながりを大切に。
- ⑧当事者や関係者、市民に、開催やその結果をわかりやすく発信する
- ⑨楽しく ☆ ㄨ

